

東北福祉大学図書館報
「としょかんぽう」



この冊子は web でもご覧いただけます。これまでの「としょかんぽう」も掲載していますので、ぜひご覧ください。

東北福祉大学図書館
ホームページ



開館情報など、図書館からのお知らせは図書館ホームページをご覧ください。

東北福祉大学図書館報「としょかんぽう」臨時増刊（第 41 号） 2024 年 7 月発行

編集発行：東北福祉大学図書館広報ワーキンググループ

〒981-8522 仙台市青葉区国見 1-8-1

☎022(717)3309

あの、ねえ…まあ、その、

『としょかんぼう 39号』の鼎ダ〜ンでも触れましたが、
図書館は書架(書棚)の管理がものすごく大変なんです。

なぜかというと、
本は増えるけど書架は増えないからです。

当たり前じゃんと思われるかもしれませんが、

じゃあ、図書館はどうしているの？

というところが、図書館業務に携わったことがない人には見えづらいので、

ここでご紹介したいと思います。

これを読めば、

「図書館の棚って詰めすぎて取りづらいよ！」

「図書館の本を処分するなんてダメだよ！」

「せっかく寄贈しようとしたのに断られた！」

「棚、空いてるじゃん！もっと入るよ！」

「図書館員って休館の日はなにしてるの？」

こういった、“図書館員が言われたことある あるある”にも答えが見えてくるかと思います。
どうぞ、最後までお付き合いください。

さて、

図書館はすぐ書架が満杯になります。

冒頭でもいいましたが、本は常に出版され続け、

図書館は収集計画に基づき、資料費(予算)の範囲内で必要な本を買い、
利用者に提供しなくてはならないからです。

簡単に統計を見てみましょう。

ここでは、『出版指標 2023』と『日本の図書館 2022』をみてみます。

『出版指標 2023』の「出版点数・発行銘柄数」というページをみてみると、

2022年の書籍新刊発行点数が66885点とあります。(販売部数ではありませんよ！タイトル数です。)
2021年は69052点、
2020年は68608点となっております、

2012年は78349点となっておりますから、
単純に10年で1万冊以上の新刊点数が減っているとみることができますね。

出版業界も大変だと、よく聞きます。

しかし、ここでは図書館のことです。

前述の通り、毎年約6.5万～7万冊弱が新しく出版されています。

今度は『日本の図書館 2022』をみます。

これをみると、日本の各図書館の予算や蔵書数、年間受入冊数、職員数、といったデータを調べることができます。

東北6県をみてみると

	奉仕人口	蔵書数(2022.3 月末時点)	受入冊数(2021 年度)
青森県立図書館	1260000	984000	21886
岩手県立図書館	1221000	824000	9262
宮城県立図書館	2282000	1165000	15693
秋田県立図書館	972000	985000 (本館のみ)	23362 (本館のみ)
山形県立図書館	1070000	735000	11390
福島県立図書館	1863000	1239000	18921

(秋田県の人口が 100 万人をきっていることがわかりますね…)

どの県立図書館も 1 年で 1~2 万冊の本を受入しています。

これが多いか少ないかはさておき、

1~2 万冊の本を並べるには書架がどのくらい必要だと思いますか？

その書架を並べるにはどのくらいの床面積が必要だと思いますか？

最近お近くの図書館が増改築したというニュース、聞いたことありますか？

もう少し具体的な話をしましょう。

本学、つまり東北福祉大学の図書館の蔵書数は図書だけで約 40 万冊です

そして、現在は年に約 6000~7000 冊の本を受入しています。

そして『としょかんぼう 39 号』の鼎ダ〜ンで話したとおり、床面積は増えるどころか減っております。

つまり、

増えない書架

増える本

です。

新しい本が入ってきました。

本学図書館では週に 100~200 冊入ってきます。

図書館の本は並べる順番が決まっています。

本の背に貼られたラベルに書かれている
請求記号(上段の数字、中段のカナ)の順に並ぶようにしています。

この本は、

375.8 のミツの書架に入れることとなります。



つまり、すでにある本の中に“**割り込んで並べる**”ということです。

本学図書館の書架がこちらです。

ケース1

見てください！！

十分なスペースがあります！

あと 5~10 冊は余裕で入りそうですね！

新着図書がきても安心！うれしい！



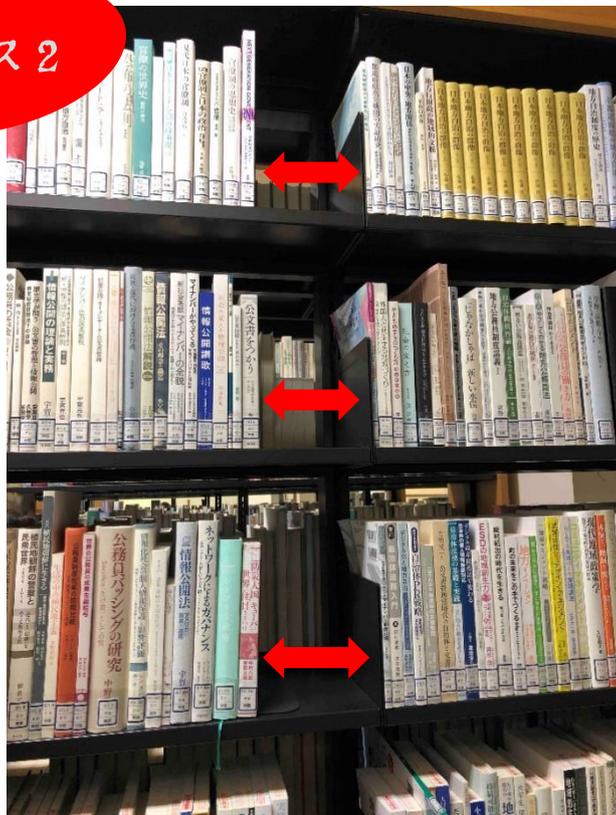
あ～～、狭いですね

ケース 2

3段合計で7～8冊は入るかな？

このジャンルの本、今年度あとどれくらい出版されるかな・・・

まあ、今年度はイけるかな・・・



あ、ちよ、、、狭っ・・・

まあ、上段に少しスペースがあるので上にずらせば入るか・・・

でもこのジャンル、毎年、相当な冊数を受入するんですよ・・・

ケース 3



ケース4

あ、これは、

ムリですね。

私には、わかります。

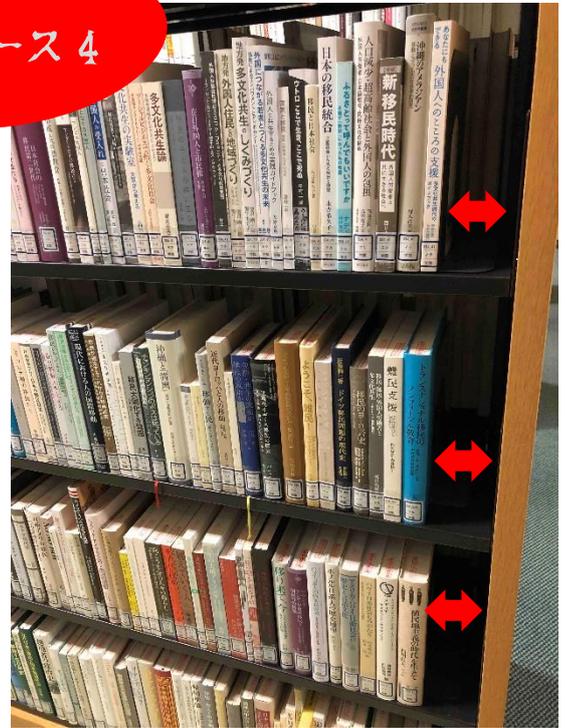
入りません。

あと1~2冊入るじゃんって思います？

でもいまここに入れたら、すぐ面倒なことになります。

というか、ここマズいですね。

早急に調整しないと。



じゃあ、図書館はどうするの？

書庫に入れます。

やってみましょう

内容が古い本、
授業内容に沿わない本、
利用が減ってきた本、
.....

1冊、1冊、
出版年や内容、貸出履歴等を見て選んでいきます。



基本的に全ての資料をシステムで管理していますので、
排架場所等のデータを変更します。

余談ですが、本学図書館では

通常、巻数を記入する背ラベルの下段に
排架場所を記入していますので、

そちらも修正します。

これは手作業です。



データ変更が済んだら書庫に行きます。

この時点で、約 140 冊を積んだブックトラックで
3F閲覧室→2F事務室→1F書庫へと移動しております。

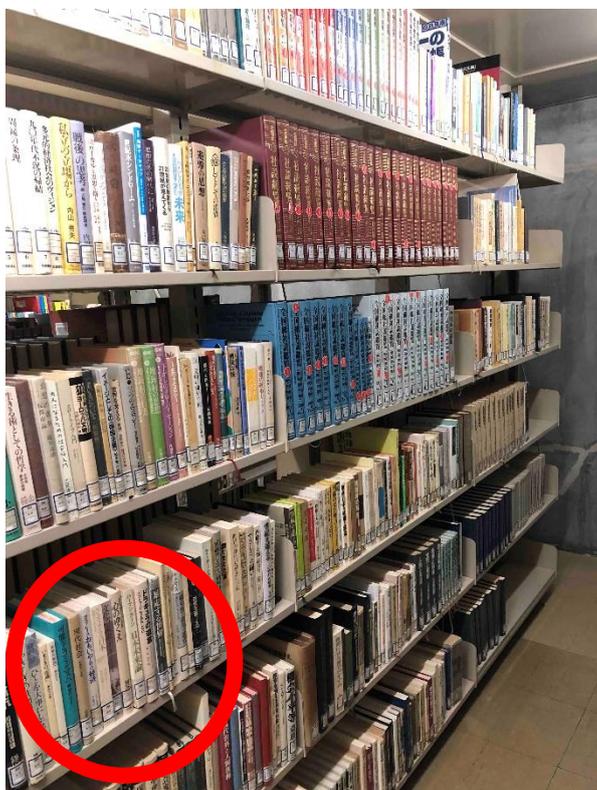
こちらが、本を運ぶ時に
使うブックトラックです。
最新のはスイスイ押
せると聞いております。



書庫に来ましたが……

これ、入らないのでは…?

このあたりから入れたいんですけど……



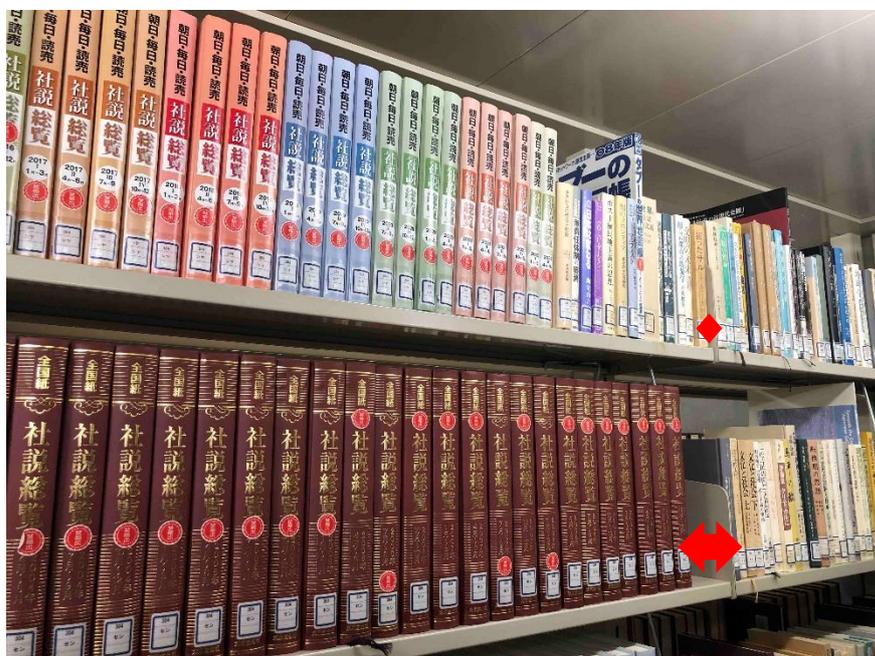
ここから割り込んで

入れていきたいのです、140冊を。



隣の書架は……

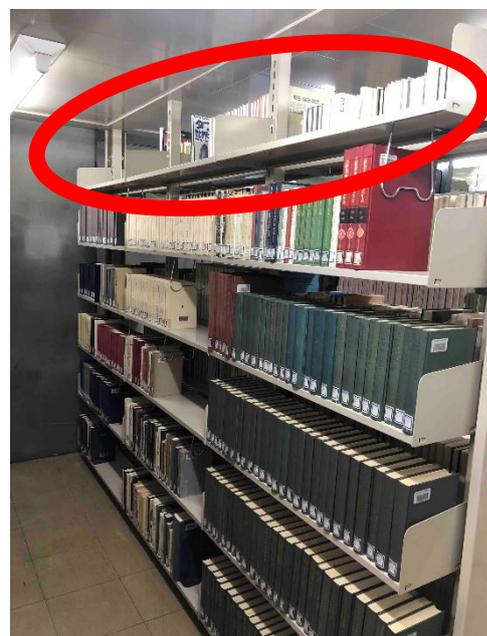
いっぱいですね。



この場合は、どこか空いている書架から
“場所”を持ってこないといけません。

ちなみに、ここは該当の書架の裏なのですが、
ここは次に閲覧室から引き上げる作業をする予定なので
空けておかななくてはなりません。

空いているようにみえても空いていないのです。



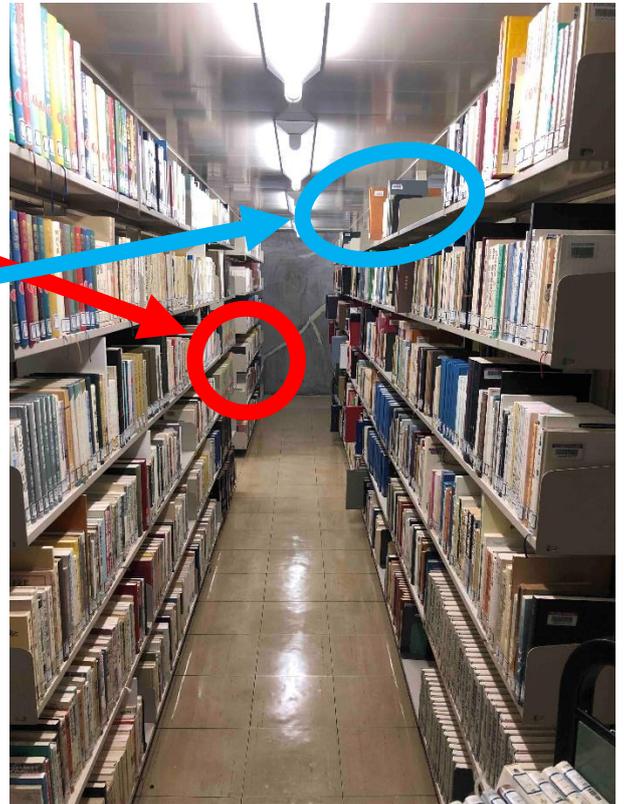
このあたりに入れたいので、

このあたりから“場所”を持ってくることにします。

本の並びは決まっていますので、
ワープすることはできません。

1段1段ずらしていきます。

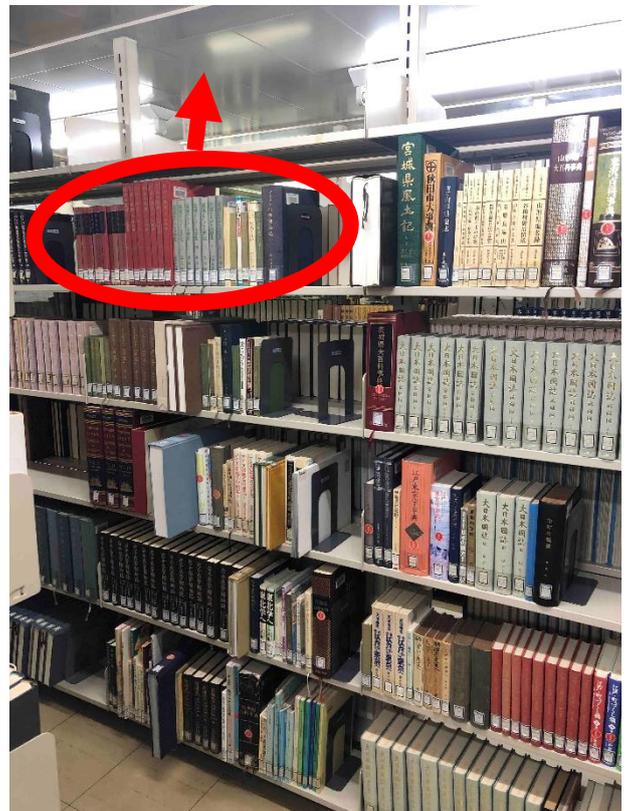
今回は62段分ずらします。
この写真に写っているほぼ全ての段です。



では、ここからずらしていきます。

これを、こう！！

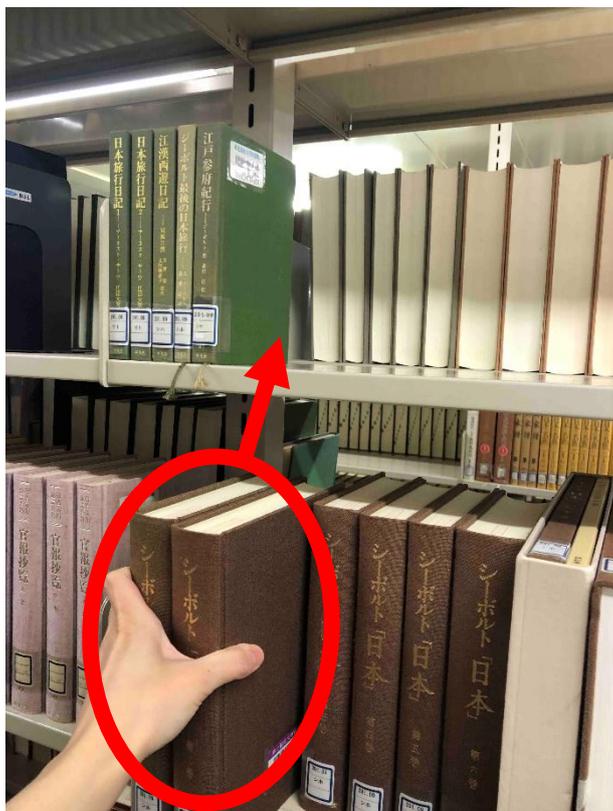
わかりましたでしょうか？



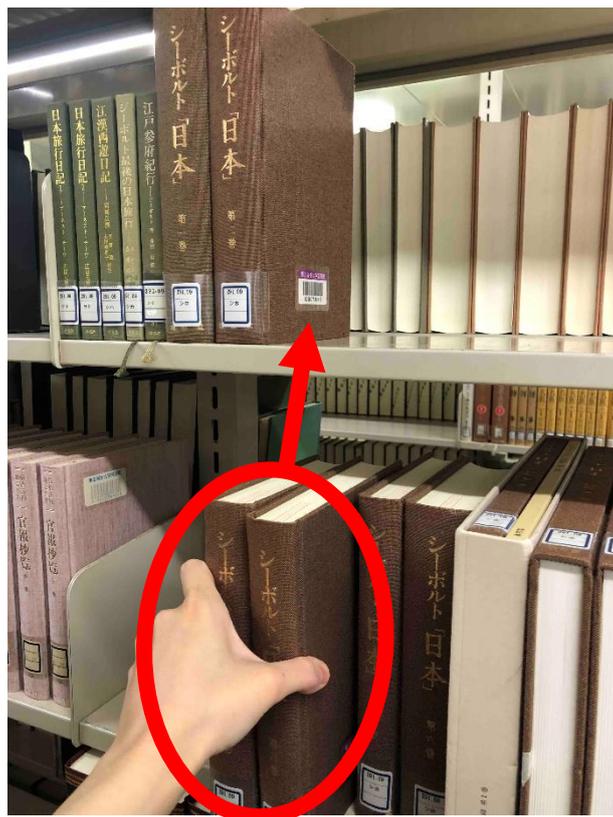
これを、こう！



これを、こう！！



これを、こう！！！！



はい、1段ずれました。



5 段ずらしました。

次は、隣の書架の上の本を下に持ってきます。



ここで少し休憩しましょう。

話は変わりますが、

図書館では“どのくらい本が入るか”を考える時、

「1 棚に 25 冊」を基準としています。
(※図書館によって違う場合があります。)

なので、簡単にいえば、100 棚あれば 2500 冊収容できると考えます。

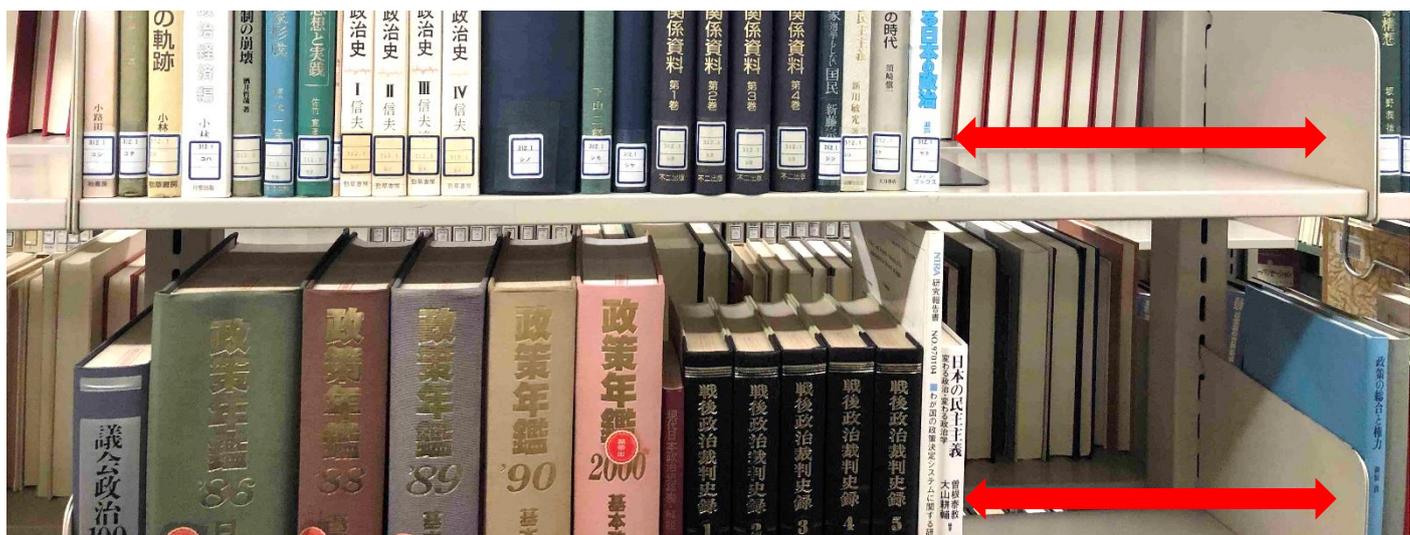
「1 棚に 25 冊」って、少ないと思いませんか？

実際にみてみましょう。



こちらの棚、23冊入っています。

あと、2冊追加して25冊にしてもまだ余裕があります。



これは、先ほどの棚の下の段です。

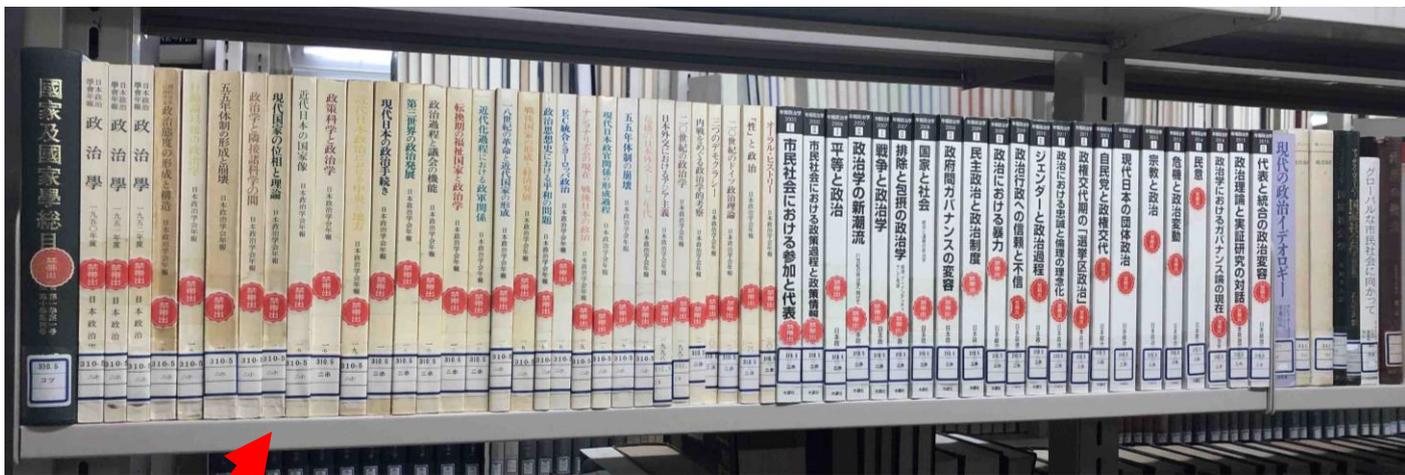
同じくらいスペースに余裕がありますが、14冊しか入っていません。

ちなみに、こちらの棚が

ちょうど25冊入っています。

ちょっと余裕がないですね。





こちらの棚はめいっぱい 54 冊入っています。
ここの間に入れる本が出てきたら・・・調整しておいた方がよさそうですね。

さて、「1 棚に 25 冊」どう思います？

これは難しい問題で、適正かどうかというのはメインで収集する本の形態にもよるので一概にはいえないものです。

ただ、ひとつだけ確実にいえるのは、

図書館にあるのは、物置小屋ではなく書庫です。

スペースいっぱい詰めていたら運用できません。

なぜなら本は増え続けるからです。

実際は 25 冊以上詰めている図書館が大多数でしょう。

ですが、「まあ、25 冊くらいで」を考えていかないと、あとあとドエライ目に合う可能性が高いと思っています。

図書館というのは、一度建物ができると 50 年以上使うことも普通です。

図書館職員は、出版される図書の量・購入する図書の量・書架の空きスペースについて

現在、来年、5年先、10年先、20年先……を気にして仕事をしています。

はたから見て、空きスペースがあっても、

図書館員の目には、

『そこは、1年で100冊くらい入れるジャンルだしな』とか

『ここは、今年度分でギリギリになるな』とか、

『あれの新シリーズ、来月発売のはずだな』とか、

これから入ってくる本が見えているので、

「ちょっと、もういっぱいですね」というのです。

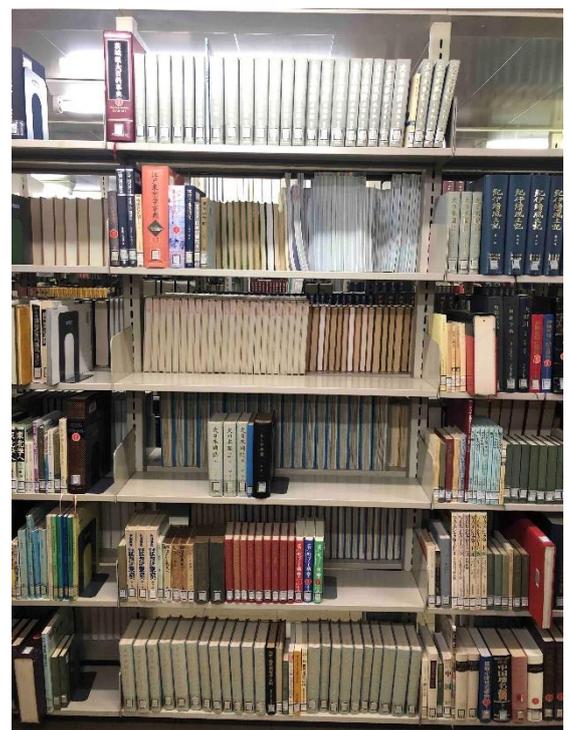
そのため、寄贈の申し出もお断りすることが多々あります。

せっかくなので、本当にうれしく思うのですが、

「入らない」のです。

さて、作業を再開しましょうか。

……ん???



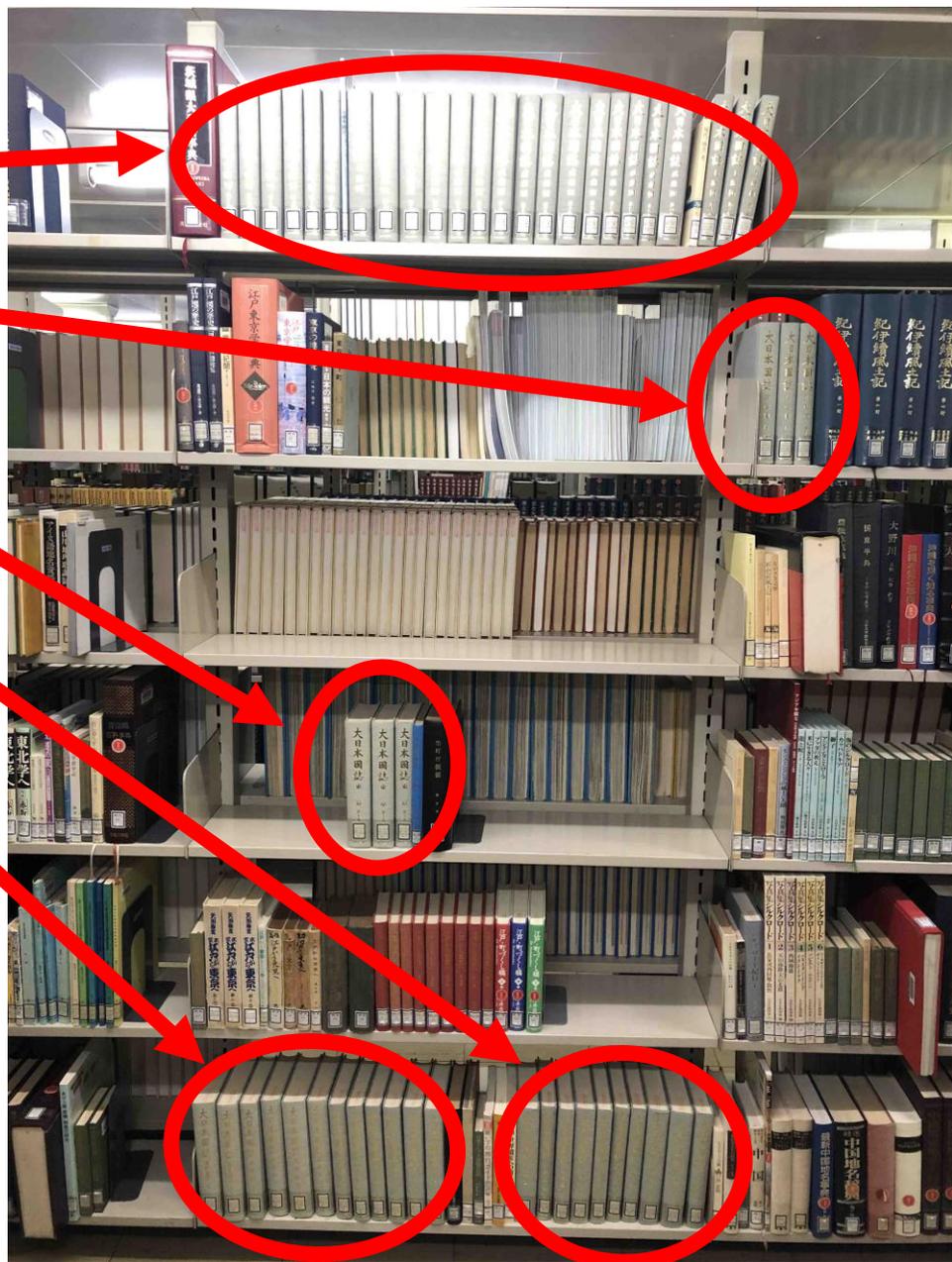
これと

これと

これと

これと

これ



全部、『大日本國誌』なのに、なんでバラバラに置かれているの????



古〜〜い時代に受入した本をみると、たまにこういうことがあります。

これは、地域ごと(上総国とか、武蔵国とか)で請求記号を付与していたので、微妙に離れて置かれていたようです。

これは、一か所にまとめた方が使いやすいですね。

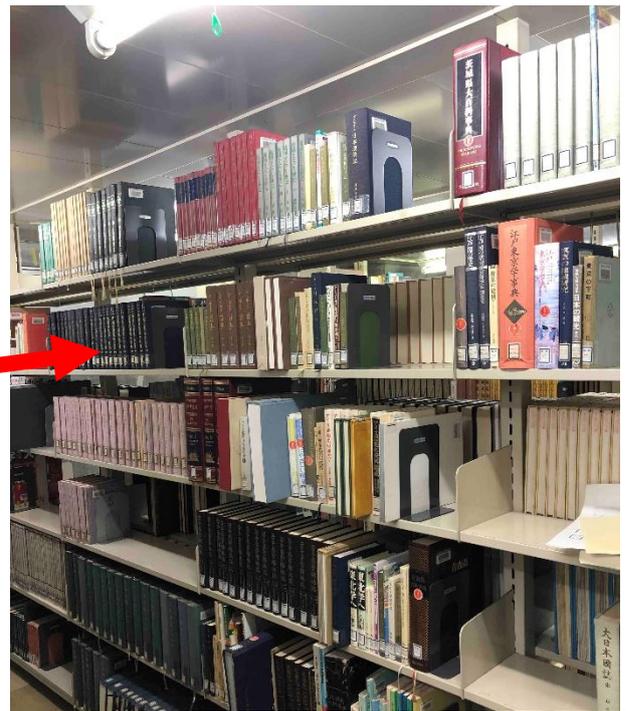
まとめるとなると

291.08 がいいですかね。

291.08 は、ここです。

ここに、『大日本國誌』52冊を入れます。

入らないですね。

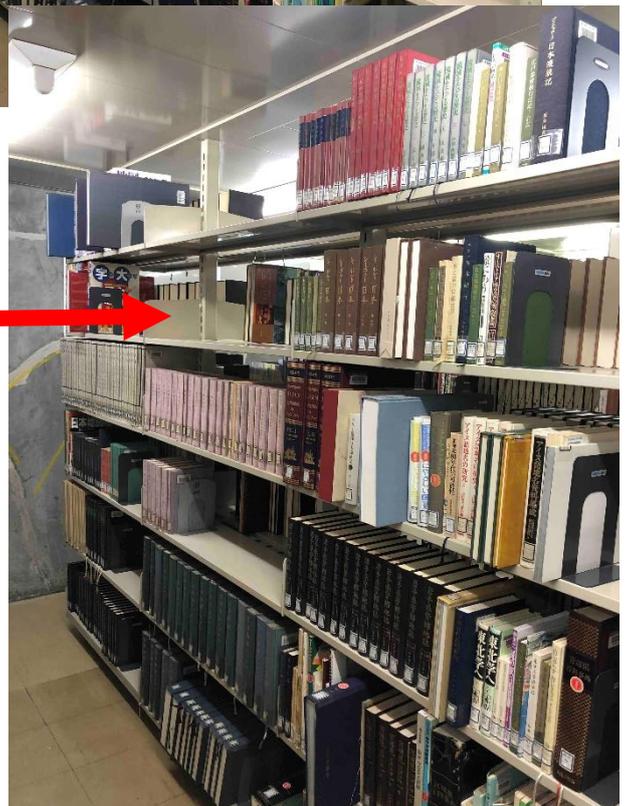


調整しました。

あと、今さらですみませんが、

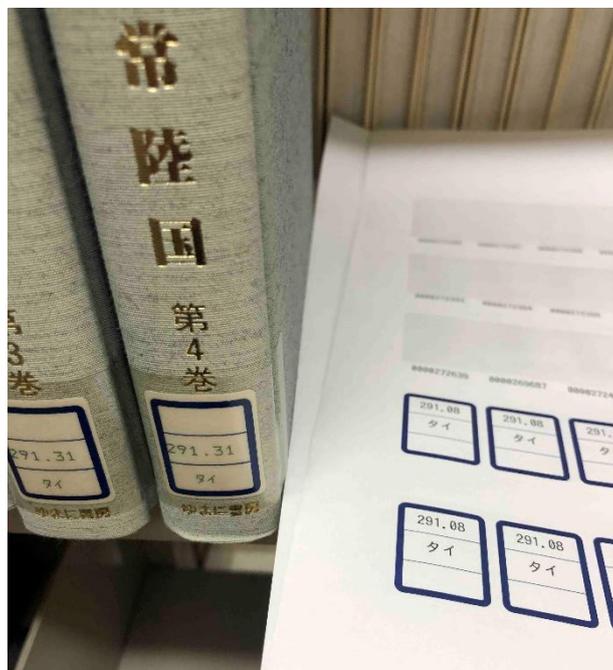
この“調整”のことを“棚のベ”としています。

これ、ほかの図書館でもそういうのでしょうか？



本のデータを変更し、

新しい背ラベルを作ってきました。



古いラベルをはがして、



新しいラベルを貼って、



保護シールを貼る。

はい、これを 52 冊やりましょう。

ちなみに、こういう作業は
書庫の空いている棚を作業台代わりにして
立ったまま行います。

素手でやりますので、
手指はどんどん乾燥し、赤く、硬くなり、
関節も痛んできます。

しかし、本を触るので勤務時間中は
ハンドクリームを塗ることもできません。

あと、うちの書庫には基本的に空調がありませんので、

冬は防寒着を着て書庫へ行きます。

マフラーして館内をウロウロしている図書館員を見かけたら、書庫に行くのかなと思ってください。



52冊終わりました。

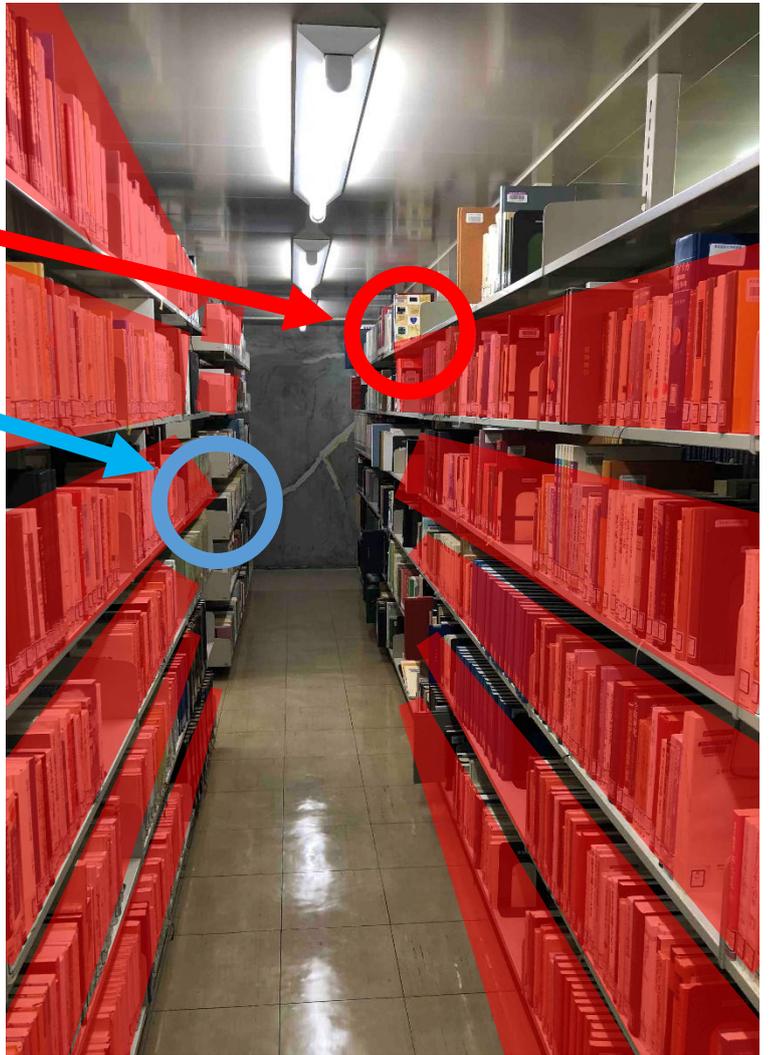
作業開始から80分が経過しています。

どこまで進んだのでしょうか



いま、ここ

ゴール



赤い部分がゴールまでの道のりです。

横では、私の棚のベが終わるのを

待っている本が……

やるよ。

ちゃんとやるから。

もう少し待っていて。

(下の段にゴミを置いてゴメンね。)



ぐいぐいやります。

一番下の段から
一番上の段へ

ほとんどスクワットみたいな運動の連続です。

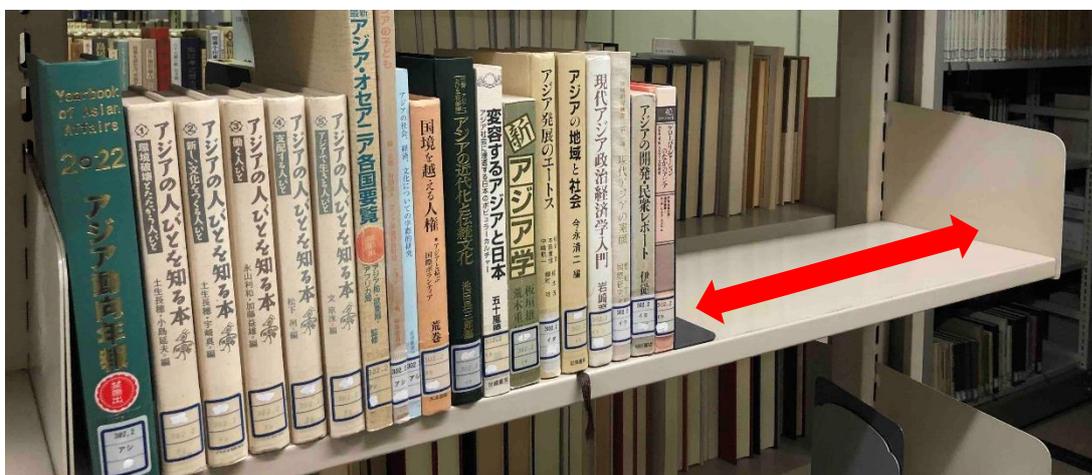
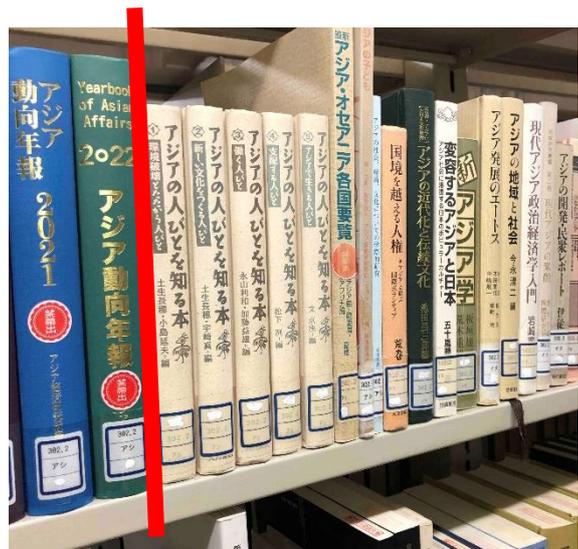


あ！これは、いけない！

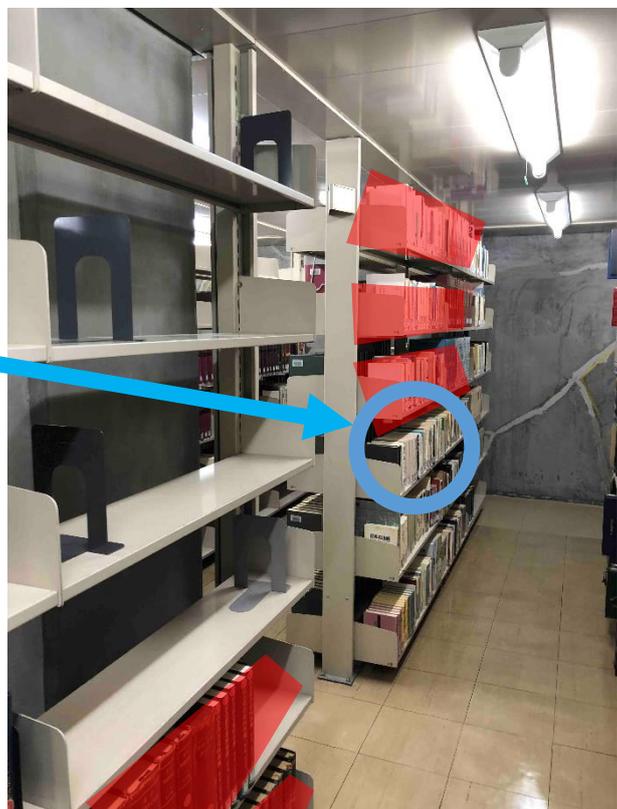
『アジア動向年報』は毎年受入しているタイトルです。

これでは、次の年も入りません！

……これだけあれば大丈夫でしょう。



ゴールまであと少し！



ついに、ここまでできました！

62 棚移動しました！！



ずっと待たせていた本を
入れていきます。



入れました。

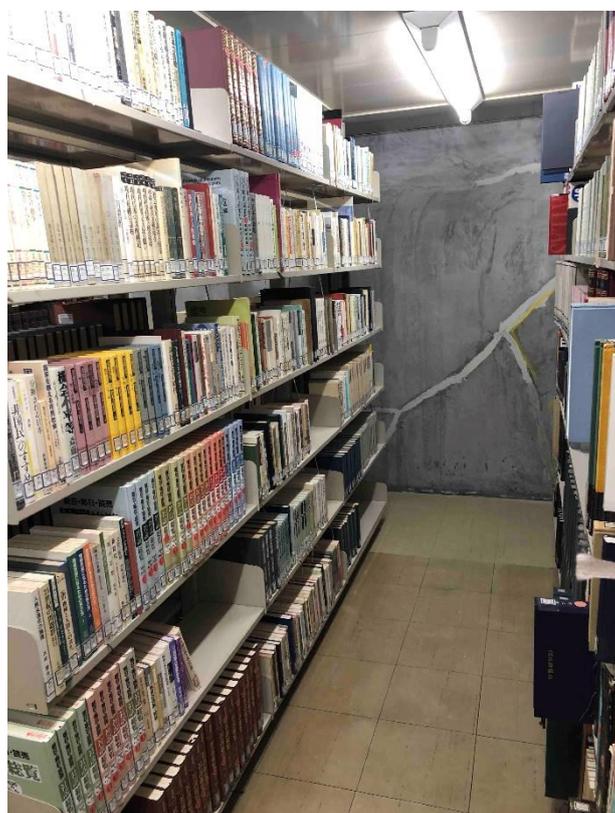
お昼休憩の時間を除いて

3時間20分の作業時間と
なりました。

当然、3時間20分ぶんの通常業務が滞っています。

※私の通常業務(担当によって異なります)

・選定・発注・受入・目録・装備・蔵書管理・広報資料の作成・学修支援の準備・図書館関係資料の回覧・寄贈資料の処理・諸データの確認、修正・展示・掲示物の作成など



さて、このような作業が図書館の随所で行われています。

ほかの職員の作業も見てください。

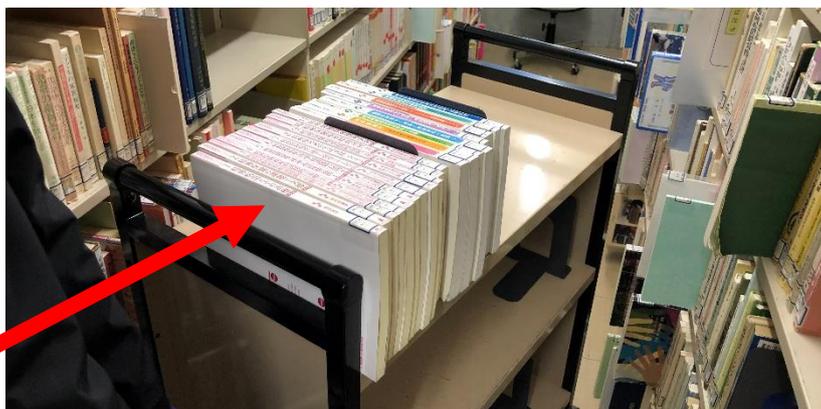
見るからに棚がいっぱいですね。



どうやら資格に関するテキストを
書庫に移動させたいようです。

資格は、定期的カリキュラムが変更に
なります。

こちらは移行期間が 2023 年度末で
終了する古いカリキュラムのテキストです。



この辺に入れたいと申しております。

これはまた作業が大変そうですね。



こちらはどうぞ。

お、『日本姓名図書目録』ですか。

すばらしい資料ですね。

これを、



ここへ？



図書館員はこういうことを休館日とかにやっています。

本学図書館でも、大学の授業がない夏と冬にやりがちです。

ここまでみていただきまして、みなさん

疑問に思うことがあるのではないですか？

そう

書庫がいっぱいになったらどうするの？

本当にね。

どうしたらいいんでしょうかね。

いつかは必ずいっぱいになります。

そうなると図書館員は考えます。

『そろそろ新館ほしいなあ』と。

現在、宮城県内では富谷市が新館を予定しています。

富谷市の HP をみると

平成 28 年度からシンポジウム等が開かれていることが記録されています。

そして、令和 6 年 3 月現在で、

設計ワークショップを開いており、開館予定は令和 8 年 3 月とされています。

瀬戸内市民図書館は平成 22 年度より新図書館整備を検討開始し、竣工・開館は平成28年度でした。

多摩市の中央図書館は平成 28 年に基本構想を策定し、竣工・開館は令和 5 年でした。

板橋区立図書館は平成 27 年に基本構想を策定し、竣工・開館は令和 3 年でした。

図書館をつくるには、とても長い準備期間が必要です。

図書館職員はそれまで利用・保存機能を落とさないように図書館を維持するように努めています。

どうしてももう無理だとなったら、泣く泣く除籍を行います。

2 冊以上ある資料、退職した教員の研究用に購入した資料、再生機器が用意できないビデオテープやマイクロフィルム、大学のカリキュラム変更でなくなった講義関連の参考図書などなど

除籍もデータの修正や、廃棄作業、大学への会計報告など、手間のかかる作業になっています。

体力的にも精神的にもキツイ作業なんですよ…無限書庫があればいいのに…

無限書庫があればいいのにねっ！！！！

無限書庫があればいいのにねってば！！！！

ねえ、聞いている？

あればいいのにねって言ってるよ？

あれ？聞こえてない？

………最初から誰もいなかったか。